

日本脳炎 予防接種を受けられる方へ（説明書）

保護者の方は、この説明書をよく読み、予防接種による効果や副反応などをよく理解し、接種に同意をしたうえで接種を受けて下さい。

1. 日本脳炎について

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介されます。

7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状がみられます。また、感染者のうち、100～1,000人に1人が脳炎等を発症し、脳炎にかかった時の致命率は20～40%程度と考えられており、神経の後遺症を残す人もいます。脳炎のほか、髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

2. 乾燥細胞培養 日本脳炎ワクチンについて

日本脳炎ワクチンは、日本脳炎ウイルスをベロ細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンでウイルスを殺し（不活化）、精製したものです。

【副反応】

- ・発熱：3%程度（38.5℃以上 1.2%程度） 接種1日目に比較的多くみられます。
- ・発赤、腫れなどの局所反応：0.8%程度 接種1日目に比較的多くみられます。
- ・発疹、じんま疹などの過敏症状：0.1%程度。

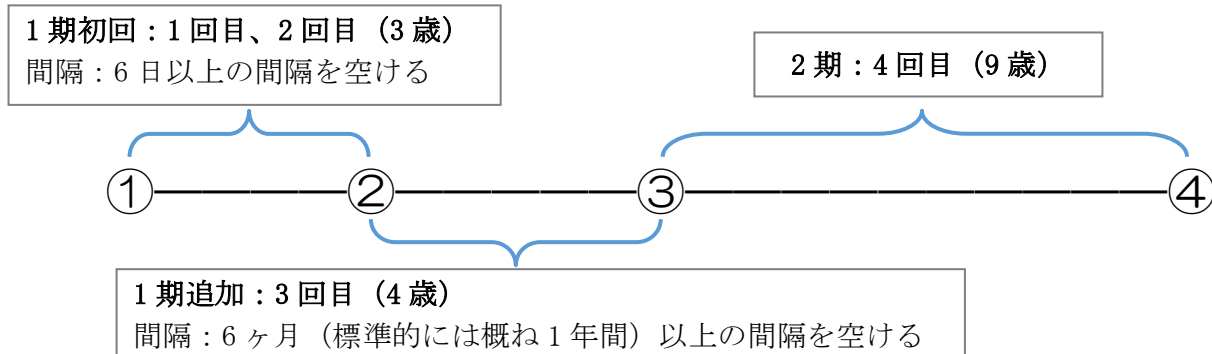
その他に、きわめてまれに、副反応で重い病気にかかることがあります。

- ・アナフィラキシー：急激なアレルギーによってじんましんがでたり、呼吸が苦しくなったりします。
- ・急性散在性脳脊髄炎：脳や脊髄に炎症が起こる病気です。発熱・頭痛・けいれん・意識障害などの症状がみられます。
- ・血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働きの血小板が少なくなって、出血しやすくなってしまいます。

3. 対象者および接種スケジュールについて

- ① 対象者 1期（3回）：生後6ヶ月～90ヶ月（7歳半となる日の前日まで）
2期（1回）：9歳～13歳未満

- ② 接種スケジュール（標準的な接種期間、接種年齢）



※日本脳炎ワクチンは“不活化ワクチン”のため、他種類の予防接種までは1週間空ける必要があります。（次週の同じ曜日から打てる）

※平成28年4月より北海道が定期予防接種化となったことに伴い、上記のスケジュールで打てなかった方達には、年度毎に対象者を分けて、順次接種を行っていますので、詳しくは問い合わせ先（保健福祉課）までご連絡下さい。

4. 予防接種を受けるときの一般的な注意事項について

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日ごろから保護者の皆さまはお子さまの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。何か気にかかることがあれば、あらかじめ、かかりつけの医師にご相談の上、接種するか否かを決めて下さい。

～安全に予防接種を受けられるよう、保護者の皆さまは、以下の注意を守ってください～

- ① 当日は朝から子どもの状態をよく観察し、普段と変わったところのないことを確認してください。接種の予定をしていますが、体調が悪く思ったら、やめる勇気を持ちましょう。
- ② 受ける予定の予防接種について、説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に医師等に質問しましょう。
- ③ 予診票は接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。

5. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（体温が37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたりしたことのある人
- ④ 予防接種を受けようとする病気に既にかかったことがある人、または現在かかっている人
- ⑤ その他、医師が不適当と判断した場合

6. 予防接種を受けるのに注意を要し、医師と相談をしなければならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- ② 前に受けた予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人、及び全身性発しん、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている人、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるため、これらにアレルギーがあるとされたことのある人

7. 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けたあと30分間は、接種会場でお子さまの様子を観察するか、先生とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後1週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつもどおりの生活をしましょう。激しい運動はさけましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

8. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になる、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、その健康被害が定期予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときには、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

<お問い合わせ>

平取町役場（ふれあいセンター内）保健福祉課 保健推進係 TEL 01457-4-6112